

独立行政法人

国立博物館 概要

2004

平成16年度





独立行政法人国立博物館概要

目 次

国立博物館理事長からのメッセージ	1
I 国立博物館に求められていること	2
II 国立博物館の活動	3
1 美と知識の発信	3
①展示・公開活動	
②研究活動	
③教育普及活動	
④ボランティア	
2 美と知識を後世に伝える	6
①収集・保管・修理	
②情報の記録と発信	
3 博物館に親しむ	7
①入館者数	
②博物館施設の有効利用	
4 各館の活動状況	8
東京国立博物館	
京都国立博物館	
奈良国立博物館	
九州国立博物館(仮称)	
III 国立博物館の運営	16
1 外部からの協力	16
①賛助会員制度等	
②友の会	
2 博物館の組織・定員	16
①組織	
②役員等	
③運営委員会	
④外部評価委員会	
⑤評議員会(各館別)	
⑥定員	
3 平成16年度予算	21
IV 評価	22
V 情報公開	24
◇ 国立博物館からのお知らせ	25

独立行政法人

国立博物館理事長からのメッセージ



独立行政法人国立博物館が発足してから、平成16年4月で4年目となります。

昨年8月、文部科学省独立行政法人評価委員会から、東京、京都、奈良3館の一体的運営を期待するとの評価意見が出されました。これを受けて、人事事務など共通する事務については、法人本部で処理することとし、従来各館がそれぞれ発行していた概要についても法人として一にまとめ、国立博物館の全体像がご理解いただけるようにしました。

また、各館の館長等を兼ねている理事長、理事の仕事についても、これまでは館の仕事にウェイトが置かれていましたが、館長等の仕事に加え、理事は各館の横断的な仕事を役割分担し、理事長がそれらを総括することとしました。

今後とも、各館の特徴を生かしながら、国立博物館の一体的運営に努めてまいります。

独立行政法人国立博物館理事長 野崎 弘

国の行政改革の一環として、平成13年4月1日から東京国立博物館、京都国立博物館及び奈良国立博物館が統合され、より質の高い極め細やかなサービスを多くの皆様に提供するために、独立行政法人国立博物館（以下「国立博物館」という。）が設立されました。

文部科学大臣から国立博物館の業務運営の指針として示された中期目標（5年間）を達成するため、国立博物館では、中期計画を作成し、さらに年度計画を立てて事業を実施しています。

中期目標（13年度～17年度）では、国民に親しまれる博物館として、

- ① 貴重な国民的財産である文化財を良好な状態で後世に伝え、文化の継承をしていく。
- ② 文化財を広く国民に紹介し、文化の向上・発展に努める。
- ③ 我が国の「顔」として国際文化交流を推進する。
- ④ ナショナルセンターとして国内外の博物館活動の充実へ寄与する。

の4つの基本的な役割を掲げています。

このため、収蔵品の充実や施設設備の整備充実をはじめとする収集・保管・展示機能、調査・研究機能及び教育普及機能の向上を図るとともに、国際交流や文化発信の拠点としての機能をより充実していく必要があるとし、以下の3つの項目が、中期目標において国立博物館に求められています。

- Ⅰ 業務運営の効率化
- Ⅱ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上
- Ⅲ 財務内容の改善等

東京国立博物館



本館 昭和13年(1938)開館。重要文化財

京都国立博物館



本館 明治30年(1897)開館。重要文化財

奈良国立博物館



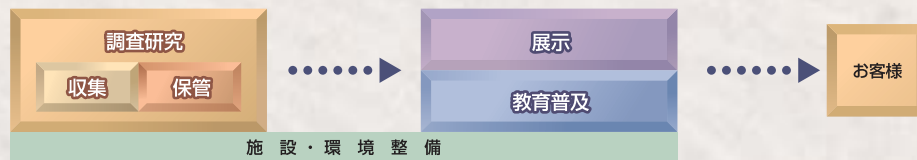
本館 明治28年(1895)開館。重要文化財

九州国立博物館(仮称)



平成17年(2005)開館予定

国立博物館の仕事には、展示・教育普及というお客様への直接のサービスと、それらを支えている収集・保管を含めた調査研究があります。もちろん、収蔵庫や展示室等の施設・環境整備は、すべての仕事の基盤となっています。ここでは、そのうちの主だったものを紹介します。



1 美と知識の発信

①展示・公開活動

国立博物館では、美術品や考古資料等の文化財に接し、美や感動を味わっていただくため、また、伝統文化への理解を深めていただくため、平常展や各種特別展を開催しています。さらに、海外の博物館・美術館等と協力・提携し、海外の文化を紹介する展覧会を東京・京都・奈良国立博物館において開催するとともに、海外においても日本の文化を紹介する展覧会を開催しています。また、国立博物館の作品を公私立博物館・美術館等で公開する「地方巡回展」を行い、地方の皆様にも当法人の収蔵品の観覧機会を設けています。このほか、考古資料を国立博物館と公私立博物館・美術館とで相互に貸借する「考古資料相互活用」を行い、その活用・公開に努めています。

展示では、次のことに配慮しています。

- ア) 褪色や劣化の進行を防ぐため、光量の抑制・温湿度調節・陳列期間の限定
- イ) 四季・節句・時宜に応じた作品の展示



特別公開「松林図屏風」(東京国立博物館)



特別展「女性と仏教」(奈良国立博物館)

■平常展

平常展では、国立博物館の収蔵品・寄託品を中心として、東京・京都・奈良各館の特色を生かした展示を行っています。各館とも定期的な陳列替えを実施し、年間で国立博物館計 10,700 件程度の作品を展示しています。

■特集(特別)陳列・特別公開

国立博物館では、近年の調査研究に基づいた特定のテーマによる展示や新発見の文化財の展示、また、普段は公開していない文化財の特別公開など、さまざまな展示を行っています。

平成16年度の主な特集(特別)陳列・特別公開 ※詳しくは 4.各館の活動状況(P.8~15)をご覧ください。

- 平成 16 年 新指定国宝・重要文化財 (4月20日～5月5日) 〈東京国立博物館〉
- 特別公開 薬師寺 国宝 吉祥天画像 (7月27日～8月22日) 〈東京国立博物館〉
- 十二天画像と山水屏風－平安の雅－ (平成 17 年 1月2日～2月6日) 〈京都国立博物館〉
- お水取り (平成 17 年 2月15日～3月21日) 〈奈良国立博物館〉

■特別展等

特別展・共催展

特別展・共催展は研究員の調査研究の成果をもとに、お客様のご要望にも対応した比較的大規模な展示です。

平成16年度の主な特別展・共催展 ※詳しくは4.各館の活動状況(P.8～15)をご覧ください。

○世紀の祭典 万国博覧会の美術 (7月6日～8月29日)〈東京国立博物館〉

○唐招提寺金堂平成大修理記念 国宝 鑑真和上像と盧舎那仏展

(平成17年1月12日～3月6日)〈東京国立博物館〉

○神々の美の世界-京都の神道美術- (8月10日～9月20日)〈京都国立博物館〉

○黄金の国・新羅-王陵の至宝- (7月10日～8月29日)〈奈良国立博物館〉

海外展

海外展は海外の博物館等と協力・提携して日本の文化を海外に発信し、日本文化への関心と理解の増進を図ることを目的としています。

平成16年度の海外展

○「日本名宝展」中国国家博物館 (北京) (5月25日～6月30日)〈奈良国立博物館〉



展覧会ポスター



会場風景

東京国立博物館名品展
「日本の美 日本の心」
ドイツ国立芸術展覧会ホール(ボン)
平成15年8月29日～10月26日
〈東京国立博物館〉



日韓初期仏教美術展
ジャパンソサエティギャラリー(ニューヨーク)
平成15年4月9日～6月22日
〈奈良国立博物館〉

地方巡回展

地方の博物館・美術館との協力により開催し、当館の文化財を地方に巡回することによって、博物館、ひいては文化そのものに対する関心と理解の増進を図ることを目的としています。

平成16年度の巡回展

○「京都国立博物館名品展」大分市美術館 (7月24日～8月29日)〈京都国立博物館〉

○「巧みと技」(岐阜県高山市との共同開催) (平成17年3月～5月予定)〈東京国立博物館〉



国宝 その美とところ
紋別市立博物館市民ギャラリー
平成15年10月4日～11月3日



東京国立博物館所蔵 琉球資料展
琉球・沖縄へのまなざし
浦添市美術館
平成15年12月13日～平成16年1月18日

②研究活動

展示活動、収蔵品の保管その他博物館における活動は、職員や客員研究員による研究活動によって支えられています。

特に文化財に関する調査研究は、博物館の基礎体力を築き強化するもので、その成果が平常展や展覧会に反映されています。

例えば平成16年1月から2月に東京国立博物館で、4月から5月に京都国立博物館で開催した「南禅寺」展では、焼失したと考えられていた南禅寺の塔頭・帰雲院の障壁画(円山応挙筆)が、東京・京都国立博物館の共同調査により東京国立博物館に保存されていたことが確認され、展示公開しました。平成15年10月から11月に京都国立博物館で開催した「金色のかざりー金属工芸に見る日本美」では、江戸時代の七宝で、制作年と作者がわかる基準作品として、調査で新たに見出された滋賀県長浜市常喜区の金銅七宝装神輿を初公開しました。

このように、日々の研究活動が展示の活性化をもたらしています。

【主な調査研究】

- ア) 各館所蔵品の調査研究
- イ) 展覧会のテーマによる調査研究
- ウ) 地域・社寺に關係する文化財調査
- エ) 科学研究費補助金による調査研究
- オ) 国内外の共同研究
- カ) 有形文化財の保管・展示に関わる環境等の調査研究



展覧会事前調査 (東京国立博物館)



初公開 金銅七宝装神輿
(京都国立博物館)

③教育普及活動

生涯学習社会への対応、学校週5日制や新学習指導要領の実施に伴う学校教育機関との連携等、下記に掲げる多岐にわたる教育普及活動を行っています。

また、公私立博物館・美術館の学芸員の資質向上に資するため「キュレーター実務研修」を実施しています。教育普及活動は、今後の博物館活動の重要な柱の一つとして充実させて行きます。

- ア) 情報資料の収集と公開
- イ) 児童生徒・教員を対象とした事業
- ウ) 公開講座・ギャラリートーク
(月例講演会、美術鑑賞講座、土曜講座など)
- エ) インターンシップの受入れ
- オ) 大学等との連携
- カ) シンポジウム



教員を対象とした展示説明会
(東京国立博物館)



児童・生徒を対象としたワークショップ
(東京国立博物館)

④ボランティア

生涯学習社会への対応としてボランティアを受け入れ、展示会場での作品解説、ワークショップの補助やボランティア自身で企画・実施する事業など、国立博物館では、さまざまな活動の場を提供しています。



児童・生徒ボランティア
(東京国立博物館)



学生ボランティアによる解説
(京都国立博物館)



ボランティア解説
(奈良国立博物館)

2 美と知識を後世に伝える

①収集・保管・修理

■収藏品・寄託品

国立博物館では、東京・京都・奈良各館の特色を更に充実させるため、また、有形文化財の散逸や海外流失を防ぐために有形文化財の収集（購入・寄贈・寄託）に不断の努力を続けています。

収藏品

（平成16年3月31日現在）

国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館		
総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文
119,384※	130	895	111,397	91	620	6,226	27	180	1,710	12	95

※九州国立博物館（仮称）移管予定の収藏品を含む

平成15年度の主な新収品



伊勢物語 絵巻
（東京国立博物館）



紫系威鎧
（京都国立博物館）

各館の平常展を充実させるため、民間等が所有する文化財を寄託していただいております。また、指定文化財の公開を奨めるため、文化庁長官による勧告・承認出品も寄託として活用しています。

寄託品

（平成16年3月31日現在）

国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館		
総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文
10,419	202	1,274	2,447	65	327	6,130	85	636	1,842	52	311



十一面観音三尊懸仏
（奈良国立博物館）

■修理

有形文化財は、大概100年に1回の修理を重ね、今日まで伝世しています。

国立博物館においては、日常的な展示・保管のための緊急修理と収藏品の損傷の進行状況により、計画的に本格的修理を実施しています。

②情報の記録と発信

調査研究の成果、修理報告等の刊行、ホームページの運用や文化財や情報資料を後世に伝えるため資料のデジタル化を推進しています。また、東京国立博物館では、デジタルデータの有料提供（TNM イメージアーカイブス）を実施しています。

刊行物

- ・ 展覧会図録
- ・ 研究紀要
- ・ 修理報告書



収藏品の絵柄をボールペン軸とメモ帳に転写したもの
（東京国立博物館）



修理前



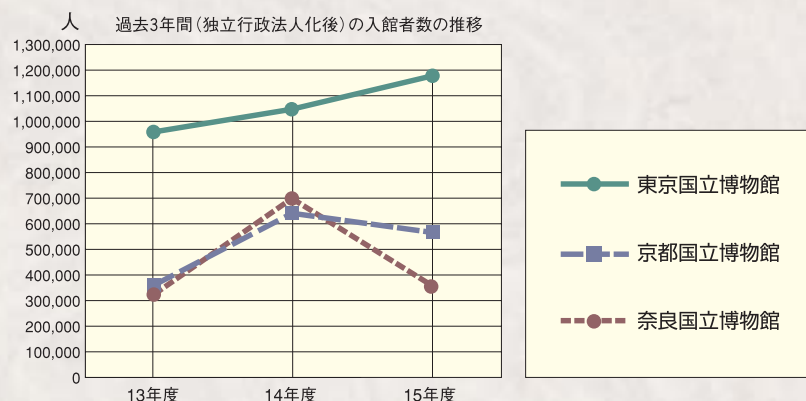
修理後

「絹本着色十六羅漢像 十六幅」のうち、第三尊者像（奈良国立博物館）

3 博物館に親しむ

①入館者数（平成 15 年度）

国立博物館	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館
総数 2,126千人	1,196千人	579千人	351千人



②博物館施設の有効利用

博物館や文化財に広く親しんでいただくため、博物館の観覧と一体化した民間企業のイベント等に博物館施設の貸し出しを行っています。これは、独立行政法人になってからの新たな取組です。国立博物館の企画・主催によるイベントは、展覧会に関するものや各館の施設に親しんでいただくことを目的としていますが、民間企業や一般団体のニーズに応えることによる、博物館施設の有効な利用も目指しています。

平成15年度 主な博物館施設の有効利用

各館主催によるイベント

- サロン・ド・ソネットとの共催による音楽会（東京国立博物館）
- 鈴本演芸場の協力による落語会（東京国立博物館）
- 日本テレマン協会との共催によるバロック音楽コンサート（東京国立博物館・奈良国立博物館）
- 講演会とフルート演奏会（京都国立博物館）
- 劇団ク・ナウカによる演劇公演（東京国立博物館）
- インド古典舞踊会（奈良国立博物館）
- 映画鑑賞会（東京国立博物館）

民間企業・一般団体による博物館施設の有効利用

- 国際ガス連盟（IGU）主催による展示鑑賞及びパーティー（東京国立博物館）
- 映画鑑賞会（奈良国立博物館）
- 結ゆふの会主催による茶会（奈良国立博物館）



国際ガス連盟パーティー（東京国立博物館）



講演とコンサート（京都国立博物館）



インド古典舞踊（奈良国立博物館）

東京国立博物館 Tokyo National Museum



東京国立博物館は、日本及び東洋諸地域における有形文化財を収集・保管・展示し、これに関連する調査研究・教育普及活動等を行っています。本年度は、日本美術の平常展示を9月から全面的にリニューアルするとともに、法隆寺献納宝物や東洋美術により親しんでいただけるよう動線などの工夫をします。また、ミュージアムショップ、レストラン、庭園など憩いの空間にも配慮し、博物館を全体として楽しんでいただけるよう館員一同取り組んでまいります。

東京国立博物館長 野崎 弘

展示公開活動

●平常展

平常展は、本館、東洋館、平成館、法隆寺宝物館で行われていますが、定期的な展示替の実施(年180回程度)をし、平成16年度は約8,000件の文化財を展示・公開する予定です。主な展示品は本館：日本の美術、東洋館：中国、朝鮮半島を中心としたアジア地域の美術・考古遺物、平成館1階：考古遺物、法隆寺宝物館：法隆寺献納宝物です。

また、本館2階では「日本美術の流れ」という通史展示をおこなっています。

本館リニューアル

当館では、平成16年9月1日より本館の平常展をリニューアルオープンします。主なテーマは下記のようになっております。

- 1階 仏教彫刻、工芸、民族資料、歴史資料、近代美術、寄贈者顕彰室
- 2階 日本美術の流れ

展示のリニューアル以外にも、インフォメーション機能の強化や展示環境の改善等、よりお客様に親しまれる博物館を目指して、本館は生まれ変わります。

※7月1日～8月31日はリニューアル工事のため、本館は閉室し、代替展示を平成館、表慶館にて行います。



特別一挙公開「富岳三十六景」



共催展「煌きのダイヤモンド」

特集陳列・特別公開

平常展の中でもテーマを決めた特集陳列や、普段公開されていない文化財の特別公開という形で一般公開も行っています。以下は平成16年度の主な特集陳列・特別公開です。

- ・拓本～3館同時開催による名品展～ (3月30日～6月6日)
- ・高野山天野社伝来の仮面と装束 (4月6日～5月16日)
- ・平成16年 新指定国宝・重要文化財 (4月20日～5月5日)
- ・平成15年度新収品 (5月18日～6月27日)
- ・新たな国民のたからー文化庁購入文化財展 (5月25日～6月27日)
- ・特別公開 薬師寺 国宝 吉祥天画像 (7月27日～8月22日)
- ・中国宋時代の彫漆 (9月7日～10月3日)
- ・東京国立博物館コレクションの保存と修理 (10月26日～12月5日)
- ・博物館に初もうで (平成17年1月2日～1月30日)
- ・特別公開 法隆寺の国宝(仮称) (平成17年3月1日～4月10日[予定])

●特別展・共催展

研究成果の公開の場、お客様の要望に答える場として、特別展・共催展を開催しており、平成16年度は以下の展覧会を開催します。

- ・空海と高野山 (4月6日～5月16日)
- ・世紀の祭典 万国博覧会の美術 (7月6日～8月29日)
- ・中国国宝展 (9月28日～11月28日)
- ・国宝 鑑真和上像と盧舎那仏展 (平成17年1月12日～3月6日)



伊能大図フロア展示(特別展「伊能忠敬と日本図」)

我が国を代表する博物館として、日本を中心にした
広く東洋諸地域にわたる文化財について、収集・保管・
展示、調査研究、教育普及活動を行います。

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9
TEL 03-3822-1111 (代表)
<http://www.tnm.jp/>



色絵月梅図茶壺
(東京国立博物館)

教育普及活動

学校の完全週5日制の実施等を踏まえて、児童・生徒向け講座やワークショップ等を実施するとともに、教員向けの研修を行い、学校と連携した活動を目指しています。平成16年度の活動は以下のとおりです。

- ・親と子のギャラリー
①「文字・もじ・モジ」(7月17日～8月29日)
②「博物館ってどんなところ?:宝もの編」(11月9日～12月26日)
③「仏像のひみつ」(平成17年1月2日～3月6日)
- ・美術鑑賞講座(年間6回)
- ・美術体験学習(年間6回)
- ・ボランティアによる作品解説
- ・中・高生を対象とした就業体験プログラムの実施
- ・「総合的な学習の時間」の受け入れ
- ・展示に関連した館内外ツアーの実施
- ・教員研修(年1回)
- ・教員向け特別展の説明会・内見会(年2回)



こどもミュージアム

調査研究活動

計画的な調査研究を実施し、文化財の収集・保管・展示に反映しています。
この活動には科学研究費補助金や文化活動の助成金も活用しています。
平成16年度の研究テーマの一部を紹介します。

- ・ガンダーラ仏教寺院の伽藍配置と出土遺物に関する基礎的研究
- ・歴史建造物における文化財の保存展示空間の再開発を目的とした理論に関する調査研究
- ・絵画および器物における彩色・装飾技術に関する技術移転の実態と独自性発生の機構
- ・江戸時代五十嵐蒔絵に関する調査研究
- ・法隆寺献納宝物と正倉院宝物の源流に関する調査研究



調査の様子

Tokyo National Museum

収蔵品 111,397件(国宝91件 重要文化財620件)
寄託品 2,447件(国宝65件 重要文化財327件)
(平成16年3月31日現在)

沿革

- 明治5年(1872) 旧湯島聖堂の大成殿で開催された日本初の博覧会を機に、「文部省博物館」として発足
- 明治8年(1875) 内務省所管となる。陳列区分は天産、農業山林、工芸器械、芸術、史伝、教育、法教、陸海部の8部門
- 明治15年(1882) 上野寛永寺本坊跡の現在地に移転
- 明治22年(1889) 宮内省所管の帝国博物館となる
- 明治33年(1900) 「東京帝室博物館」と改称
- 大正12年(1923) 関東大震災により、旧本館が損壊
- 大正14年(1925) 天産部の列品を文部省の東京博物館(現在の国立科学博物館)等に移管
- 昭和13年(1938) 現在の本館が開館
- 昭和22年(1947) 文部省所管「国立博物館」となる
- 昭和53年(1978) 表慶館が重要文化財に指定される
- 平成11年(1999) 法隆寺宝物館が開館、ついで平成館が開館
- 平成13年(2001) 独立行政法人国立博物館 東京国立博物館となる
- 平成13年(2001) 本館が重要文化財に指定される

利用案内

開館時間/9:30～17:00(入館は閉館の30分前まで)

4月～11月の特別展開催期間中の金曜日は20:00まで
開館、土日祝日は18:00まで開館

休館日/月曜日(月曜日が祝日・休日にあたる場合は開館し、翌日休館)

年末年始(12月28日～1月1日)

ただしゴールデンウィーク及び夏休み期間中
(7月20日～8月31日)は原則として無休

入場料/一般 420(210)円 大学生 130(70)円

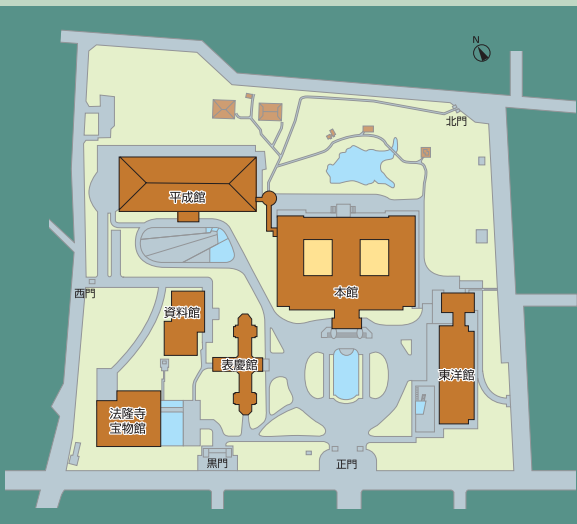
※特別展の場合は別料金

※()内は20名以上の団体料金

※障害者とその介護者1名は無料

※満65歳以上、高校生以下は平常展については無料

※敬老の日は、平常展については無料



京都国立博物館 Kyoto National Museum



京都国立博物館は、平安時代から江戸時代に及ぶ京都を主とする文化財を対象として活動をつづけてきました。1200年にわたって日本文化の中心地であった京都は、豊かな文化遺産に恵まれており、当館が行う新たな調査のたびに、だれにも知られていなかった貴重な文化財が次々と発見され、改めて無尽蔵ともいえる京都文化の広さと深さを実感します。伝統を踏まえて未来を展望する方針に沿って、今後とも当館の活動を充実させて行くつもりです。また、独法化を機に、従来とは違う新鮮な発想も取り入れながら、より広範な国民の方々に親しまれる博物館をめざして努力して行きたいと願っています。

京都国立博物館長 興膳 宏

展示公開活動

●平常展

平常展示館で開催。概ね近世までの美術工芸品を、展示室ごとに絵画・彫刻・工芸・書跡・考古等の各分野にわたり、定期的に陳列換え（年50回程度）を行いながら年間約2,000件を展示いたします。

特集陳列

平常展示館の一部を使用し、特定のテーマに基づき開催いたします。

- ・南禅寺一切経・秘蔵詮 ー高麗版画・幽玄な山水表現ー（4月6日～5月16日）
- ・描かれた古器物 ー江戸から明治の古物研究ー（5月19日～6月27日）
- ・新収品展（6月30日～8月1日）
- ・皇后陛下ご養蚕の小石丸 正倉院裂復元模造の十年（8月21日～9月23日）
- ・もうひとつの守屋コレクションー中国の銅鏡ー（10月19日～12月19日）
- ・十二天画像と山水屏風ー平安の雅ー（平成17年1月2日～2月6日）
- ・高台寺蒔絵と南蛮漆器（平成17年1月2日～2月20日）
- ・仏像と写真（平成17年1月2日～3月27日）
- ・宸翰ー文字に込めた想いー（平成17年3月2日～4月3日）

●特別展・共催展

特別展示館で開催いたします。

- ・亀山法皇700年御忌記念特別展 南禅寺（4月6日～5月16日）
- ・神々の美の世界ー京都の神道美術ー（8月10日～9月20日）
- ・守屋コレクション寄贈50周年記念 古写経ー聖なる文字の世界ー（10月19日～11月28日）



特集陳列「鎌まつりとお人形」



特別展「金色のかざり」

教育普及活動

●児童・生徒向け活動

- ・小中学生向け作品解説シート（博物館Dictionary）の作成及びホームページ掲載
- ・特集陳列等で児童生徒を対象とした講座（少年少女博物館くらぶ）を実施
- ・中学生の体験学習の受け入れ

●大学院教育研究における連携・協力

京都大学大学院人間・環境学研究科共生文明学専攻歴史文化社会論講座博物館文化財学分野において、当館の研究員が客員教員として教育研究を行っています。

●講座・講演会等

- ・土曜講座の開催（年46回程度）
毎週土曜日、当館研究員による展覧会や展示品についての講座を行っています。
- ・夏期講座の開催（7月28日～7月30日）
「模倣と創造Ⅱ」というテーマで行います。
- ・特別展覧会「古写経」に因んだ国際シンポジウムの開催（11月13日）



少年少女博物館くらぶ



夏期講座

平安時代から江戸時代の京都文化を中心とした文化財について、収集、保管、展示、調査研究、教育普及活動を行っています。

〒605-0931
京都府京都市東山区茶屋町527
TEL 075-541-1151 (代表)
<http://www.kyohaku.go.jp/>



唐三彩馬俑
(京都国立博物館)

■調査研究活動

●調査研究

当館では、博物館事業の基礎資料を得るため、昭和54年度から、組織的に社寺文化財の悉皆的調査を実施しています。現在は建仁寺及びその塔頭の文化財調査を継続中です。

社寺調査の成果はその都度『社寺調査報告』として刊行(現在第23冊)し、これは社寺の宝物台帳としても利用されています。

■その他の活動

●出版物

研究紀要『学叢』、館蔵名品図録などさまざまな出版物を刊行しています。

●京都・らくご博物館

親しまれる博物館づくりの一環として、わが国の伝統文化である落語を「京都・らくご博物館」と題して、年4回季節に応じた演目を上演します。

このほか、講演会や音楽会も開催します。



草花文様四つ替小袖
(京都国立博物館)

Kyoto National Museum

収蔵品 6226件(国宝27件 重要文化財180件)
寄託品 6130件(国宝85件 重要文化財636件)
(平成16年3月31日現在)

沿革

明治22年(1889)	帝国京都博物館として設置
明治30年(1897)	開館
明治33年(1900)	「京都帝室博物館」と改称
大正13年(1924)	京都市に下賜し、「恩賜京都博物館」と改称
昭和27年(1952)	恩賜京都博物館を国に移管し、文化財保護委員会の附属機関として「国立博物館」と改称
昭和41年(1966)	現在の平常展示館が開館
昭和44年(1969)	特別展示館、表門、同札売場、袖堀が「旧帝国京都博物館」として重要文化財に指定される
昭和48年(1973)	第1回土曜講座開講
昭和54年(1979)	文化財保存修理所完成
平成13年(2001)	百年記念館(仮称)新築事業の一環として南門が竣工
平成13年(2001)	独立行政法人国立博物館 京都国立博物館となる

利用案内

開館時間／9:30～17:00(入館は閉館の30分前まで)

特別展覧会開催期間中は18:00まで開館(金曜日のみ20:00まで開館)

休館日／月曜日

(月曜日が祝日・休日にあたる場合は開館し、翌日休館)
年末年始(12月28日～1月1日)

入場料／大人 420(210)円 高校生・大学生 130(70)円

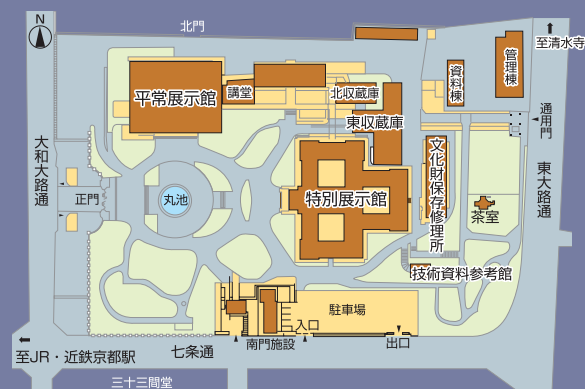
※特別展の場合は別料金

※()内は20名以上の団体料金

※障害者とその介護者1名は無料

※満70歳以上、中学生以下は平常展については無料

無料観覧日:毎月第2・第4土曜日と敬老の日は、平常展・特集陳列が無料でご覧いただけます。



奈良国立博物館 Nara National Museum



奈良国立博物館は、多くの社寺に囲まれた奈良公園に位置し、明治28年の開館以来、仏教美術を中心とした文化財の収集・保管、調査研究、教育普及活動および国内外の博物館等との交流を行い、展示を通して仏教信仰が生み出した優れた美術の魅力と、背景にある豊かな歴史・文化について紹介してまいりました。

今後は、活動の高度化・国際化・電子化の推進や、関係機関等との連携協力の強化とともに、「美と知識と憩い」の場として、開かれた親しみやすい博物館の実現に向け、一層充実した活動を展開してまいります。

奈良国立博物館長 鷺塚泰光

展示公開活動

●平常展

「仏教美術の名品」と題し、本館および西新館で行っています。本館では、飛鳥時代から鎌倉時代に至る仏像を中心とした日本彫刻、およびその源流となるガンダーラ・中国・朝鮮半島の諸作品と、中国古代青銅器のコレクションを展示しています。西新館では絵画・書跡・工芸・考古のジャンル別に展示を行います。平常展では、定期的な陳列替（年24回程度）により、約700件以上の文化財を公開いたしますが、特に平成16年3月から平成17年10月まで「法隆寺伝法堂・乾漆造の諸尊像」を公開するなど、魅力的な内容となっています。

特別陳列

各分野で行う小規模のテーマ展示です。

- ・金師の古墳時代～副葬品にみる日韓交流の足跡－（7月10日～8月29日）
- ・法隆寺救世観音像旧厨子（12月4日～12月26日）
- ・大和の神々と美術 談山神社の名宝（12月11日～平成17年1月23日）
- ・古密教（仮称）（平成17年1月2日～2月6日）
- ・お水取り（平成17年2月15日～3月21日）

親と子のギャラリー

小・中学生にもわかりやすい仏教美術の入門展示です。

- ・古地図を読みとく（7月10日～8月29日）

●特別展・共催展

春季および秋季を中心に年間2～3回開催します。

- ・法隆寺－日本仏教美術の黎明－（4月24日～6月13日）
- ・黄金の国・新羅－王陵の至宝－（7月10日～8月29日）
- ・日本の考古－曙光の時代－（仮称）（平成17年3月23日～5月8日）
- ・第56回正倉院展（10月30日～11月15日）

●海外交流展

海外において、日本美術を紹介します。

- ・日本名宝展（会場：中国国家博物館）（5月25日～6月30日）



中国古代青銅器（平常展）



正倉院展観覧風景

文化財の収集・保管・修理

貴重な国民の財産である有形文化財を守るため、購入・寄贈・寄託により、有形文化財の収集に努力しています。

展示室や収蔵庫においては、常時適切な温湿度管理を実施するなど、収集した文化財の保存環境にも細心の注意を払っています。

また、我が国に伝わる文化財は紙、木など脆弱な材質のものが多く、これらを後世にいかに関く伝えるかが大きなテーマになっています。当館では平成14年に文化財保存修理所を設置、文化財の計画的修理を実施しています。



文化財保存修理所

仏教美術を中心とした文化財について、収集・保管・展示、調査研究、教育普及活動等を行っています。

銅鐸
(奈良国立博物館)

〒630-8213 奈良県奈良市登大路町50
TEL 0742-22-7771(代表)
<http://www.narahaku.go.jp/>

ボランティア解説



■教育普及活動

●教育普及

近年の生涯学習へのニーズと学校週5日制・新学習指導要領実施への対応や、公私立博物館・美術館学芸員の資質向上、学芸員資格取得希望者への実習など、文化財に対する理解を深めるための様々な教育普及活動にも力を入れています。

- ①文化財に関する情報資料の収集と公開
- ②児童・生徒を対象とした事業
親子の文化財教室、教員・保護者への博物館理解の促進
- ③講演会・講座等の実施
ギャラリートーク、公開講座、夏季講座、特別展に関するシンポジウム
- ④公私立博物館・美術館学芸員への研修(キュレーター研修)
- ⑤博物館学実習
- ⑥ボランティア活動の充実



博物館学実習

■調査研究活動

●調査研究・国際交流

文化財に関する調査研究は、その成果が平常展や特別展に反映され、展覧会の活性化をもたらすことから、特に重要な活動と位置づけています。当館では、平成16年度も以下のテーマで調査研究を行い、着実な成果をあげています。

また、海外の博物館等との国際交流も精力的に実施し、今年度は韓国国立慶州博物館との学術交流の成果として、特別展「黄金の国・新羅-王陵の至宝-」を夏に開催いたします。

- ①南都諸社寺に関する計画的な調査研究
- ②海外所在東洋美術を対象とする調査研究
- ③大和古代寺院出土遺物の研究(帝塚山大学考古学研究所との共同研究)
- ④仏教絵画に関する研究(東京文化財研究所との共同研究)
- ⑤特別展等に関する調査研究
- ⑥仏教美術写真収集及びその調査研究
- ⑦韓国国立慶州博物館、中国上海博物館、中国国家博物館(北京)等との学術交流

N a r a National Museum

収蔵品 1,710件(国宝12件、重要文化財95件)
寄託品 1,842件(国宝52件、重要文化財311件)
(平成16年3月31日現在)

沿革

明治22年(1889)	帝国奈良博物館として設置
明治28年(1895)	開館
明治33年(1900)	奈良皇室博物館と改称
大正3年(1914)	正倉院掛が置かれる
昭和22年(1947)	宮内省より文部省に移管される
昭和25年(1950)	文化財保護委員会附属機関となる
昭和27年(1952)	奈良国立博物館と改称
昭和43年(1968)	文化庁の附属機関となる
昭和44年(1969)	本館が重要文化財に指定される
昭和47年(1972)	陳列館新館(西新館)竣工
昭和55年(1980)	仏教美術資料研究センター設置
平成7年(1995)	開館百周年記念式典挙行
平成9年(1997)	東新館、地下回廊竣工
平成12年(2000)	文化財保存修理施設竣工
平成13年(2001)	独立行政法人 国立博物館 奈良国立博物館となる

利用案内

開館時間／9:30～17:00(入館は閉館の30分前まで)

4月最終から11月第2までの毎週金曜日、1月第2曜日の前日、2月3日、3月12日、8月15日、12月17日は19:00まで開館

休館日／月曜日

(月曜日が祝日・休日にあたる場合は開館し、翌日休館)
年末年始(12月28日～1月1日)

入場料／一般 420(210)円 高校生・大学生 130(70)円

※特別展の場合は別料金

※()内は20名以上の団体料金

※障害者とその介護者1名は無料

※中学生以下は平常展については無料



九州国立博物館(仮称) Kyushu National Museum



九州国立博物館(仮称)は平成16年3月に建物が竣工しました。これから17年秋に予定されている開館をめざして、準備室員ともども邁進してまいります。来館者にはアジアとの長い文化交流の歴史をお見せし、子供たちにはアジアの多様な文化を楽しく体験してもらいます。研究者には博物館科学と国際交流の拠点となります。そしてこれらを通じて地元の発展にも貢献します。以上が当館の目標です。こうした目標の実現のためにさらに努力を重ねたいと思います。

九州国立博物館(仮称)設立準備室長 三輪嘉六

建物の紹介

●構造等

当館は地下2階地上5階建の建物です。1階はエントランス、ミュージアムホール等、2階は管理諸室と収蔵庫、3、4階に展示室を設けています。外観は曲面の屋根とガラスの壁で構成され周辺環境に溶け込むデザインになっています。構造躯体は大部分を鉄骨造としています。床等にはコンクリートを使用していますが、工場で製作したものを工事現場で組み立てる方式を採用して、アンモニアガスの発生を低減し「枯らし期間」の短縮と文化財への影響を軽減しています。また、地震時の揺れを吸収するために免震層を構造躯体に組み込んでいます。



外観

●アジア文化体験エリア

1階のエントランスホール、エスカレーターの脇に四半円型のスペースがあります。ここがアジア各国独自の造形に触れ、また、音を聴くコーナーです。ボランティア指導員といっしょに文化の違いを楽しみましょう。



収蔵庫

●収蔵庫

文化財は様々な材質で作られているため、その材質等の種類ごとに収蔵庫があります。温度、湿度、空気質及び有害生物等について厳しく管理し、それぞれの文化財に適した環境を維持します。外気の影響を直接受けないように建物の中央に配置し、壁は二重壁構造とし、内装の仕上げはすべて杉材を使用しています。



保存科学・修復室

●保存科学・修復室

文化財を守り公開するためには、適切な展示・収蔵環境の維持が必要です。また、文化財の状態を把握し必要に応じた修理も行なわれます。これらの目的のために、当館の保存科学・修復諸室は2、3階に設けられ、大きく3つのゾーン(環境保全、保存修復、材料・技法調査)から構成されています。

●特別展示室

3階にあるこの特別展示室は日本やアジア、さらには世界の、さまざまな美術展を企画してお見せするギャラリーです。3室からなり規模に応じて使い分けられます。17年秋に予定している開館記念展はここで催されます。もちろん、全室を使う最大規模になるでしょう。



特別展示室

●文化交流展示室

当館のもっとも大きな目的である、アジア諸国との文化交流の積み重ねの中から発展してきた日本の文化の流れを見る、とても広い4階のギャラリーです。旧石器時代から江戸時代の終わりまで時間を追って見てゆくこともできますし、自分の関心のあるところから見ることもできます。さらに関連展示室では興味深いテーマによる展示がおこなわれます。

「日本文化の形成を日本列島だけでなく、アジア史的観点から捉えていく」という考えに基づいて、設置するものです。平成17年度開館予定です。

〒818-0118 福岡県太宰府市石坂4-7-2 電話092(918)2807(代表)
http://www.kyuhaku.com/pr/

■ 展覧会

● ホップ・ステップ展

平成17年2月15日～4月10日、東京国立博物館特別第2・4室(予定)
平成16年2月に東京国立博物館の本館の2室を使用して実施した「はじめての一步展」の第2弾です。いよいよ開館を来年に迎えて今年は大きく踏み出さねばなりません。1回目は「開館への序章」という副題をつけましたが、今回は開館というジャンプに向けて一歩・二歩と跳躍を重ねるという意味を込めました。前回ではお見せできなかったテーマを中心に九州での展示のダイジェスト版となるように工夫したいと思います。



はじめての一步展ポスター



はじめての一步展

■ 文化財の収集

● 新収蔵品の紹介

平成15年度、以下の作品を中心に10点収集しました。

- ・ 北野天神縁起絵巻
- ・ 扇面画帖
- ・ 針聞書
- ・ ウンスンカルタ

西洋から伝えられたカルタを起源として、日本で考案された。一枚々々丁寧に手書きされた絵柄には、日本のあるいは中国的な中にも西洋的な風俗を留めたものもある。江戸前期の作と認められ、現存最古の可能性があり、75枚1組が完存している点でも貴重。



ウンスンカルタ

沿革

- 平成6年(1994) 「新構想博物館の整備に関する調査研究委員会」の設置
- 平成7年(1995) 新構想博物館を九州国立博物館(仮称)として、その設置候補地を福岡県太宰府市とすることを決定
- 平成9年(1997) 同委員会が「九州国立博物館(仮称)基本構想」を取りまとめ
- 平成10年(1998) 同委員会が「九州国立博物館(仮称)基本計画」を策定
- 平成11年(1999) 福岡県及び財団法人九州国立博物館設置促進財団(以下「財団」という)と共同で「建築基本設計」を完了し、また、福岡県と共同で設置した「九州国立博物館(仮称)設立準備専門家会議」が「常設展示計画」を策定
- 平成12年(2000) 福岡県及び財団と共同で「建築実施設計」を、また、福岡県と共同で「展示基本設計」を完了
- 平成13年(2001) 福岡県及び財団と共同で「建設工事(3年計画の第一年次)」に着手
- 平成14年(2002) 独立行政法人国立博物館及び福岡県の2者で「展示実施設計」を完了
- 平成15年(2003) 独立行政法人国立博物館及び福岡県の2者で「展示工事(2年計画の第一年次)」に着手するとともに、「建設工事」を完了
- 平成16年(2004) 建物竣工

交通案内

- ・ 車 九州自動車道利用
太宰府インターから太宰府天満宮方面へ(約15分)
- ・ 鉄道 西鉄利用
福岡(天神)駅から天神大牟田線で二日市駅へ、同駅で太宰府線に乗り換え、太宰府駅下車(約20分)、徒歩(約15分)
JR利用
博多駅から鹿児島本線で二日市駅下車(約15分)、タクシー(約15分)
- ・ 飛行機 福岡空港からタクシー(約30分)



1 外部からの協力

①賛助会員制度等

国立博物館は、活発な事業運営を進めていくため自助努力するとともに、広く皆様のご支援をいただき、運営基盤を確保する必要があります。このような趣旨から、東京国立博物館、奈良国立博物館では賛助会員制度を設けています。また、京都国立博物館では、(社)清風会のご支援を受けています。

②友の会

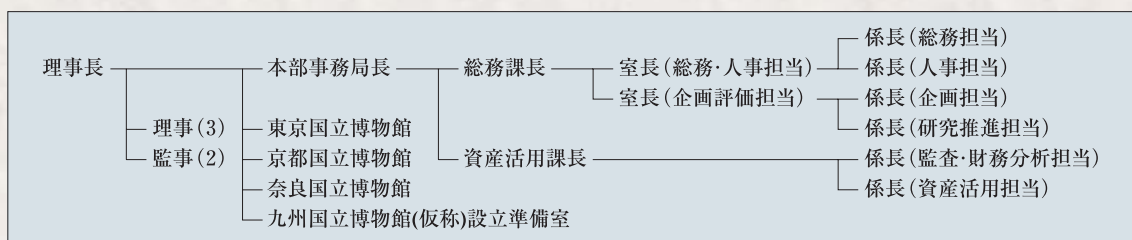
国立博物館により親しんでいただくため、各種事業に参加していただくことを目的に設けています。運営の態様は、各館の地域性に鑑み、各館独自の運営となっております。

※詳しくは P.25 をご覧ください。

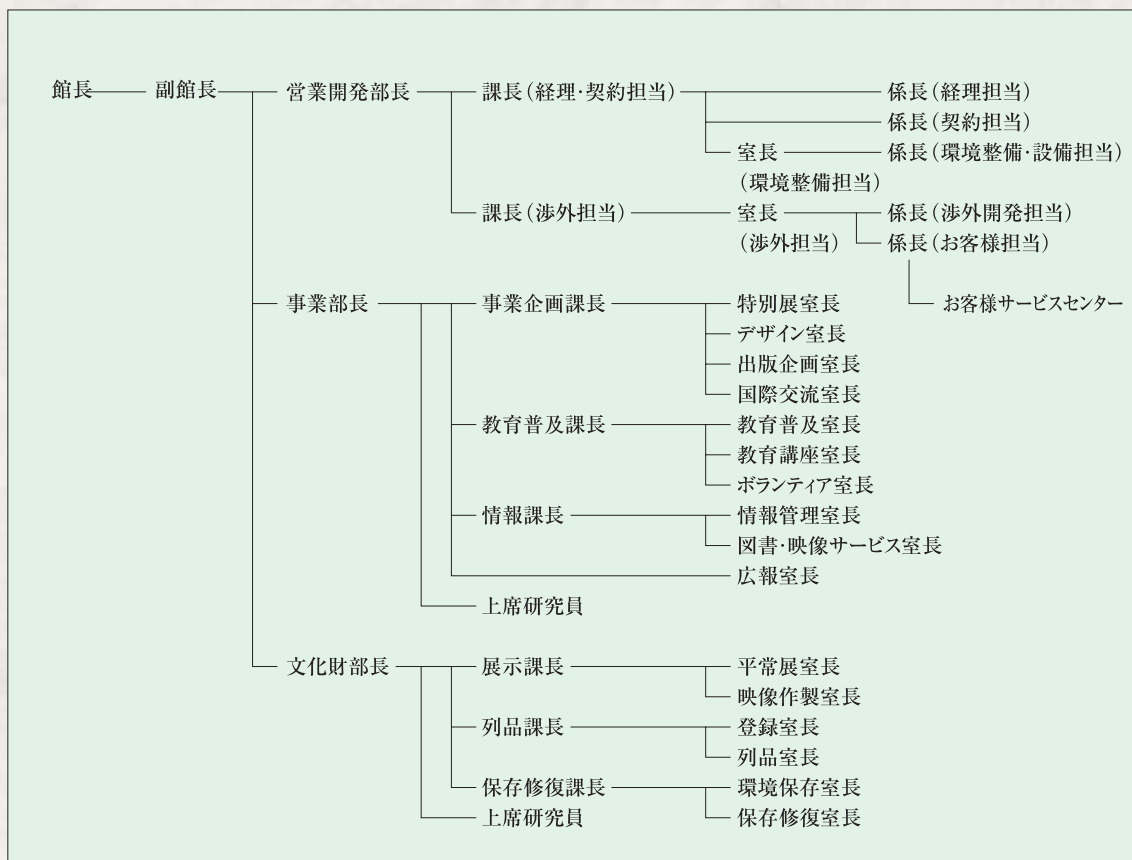
2 博物館の組織・定員（平成16年4月1日現在）

①組織

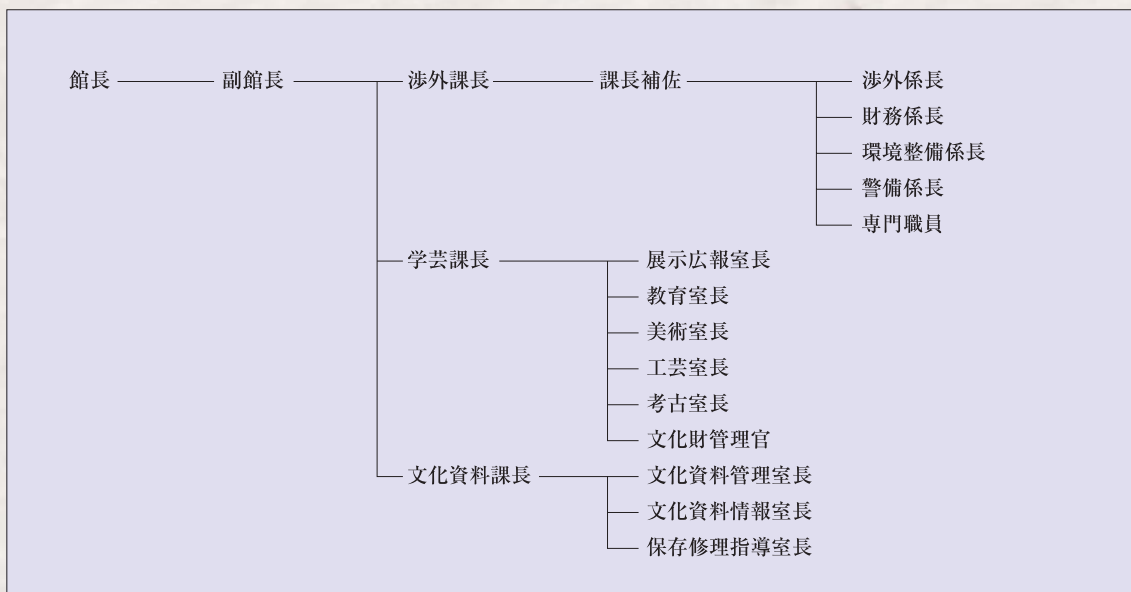
独立行政法人国立博物館・本部事務局組織図



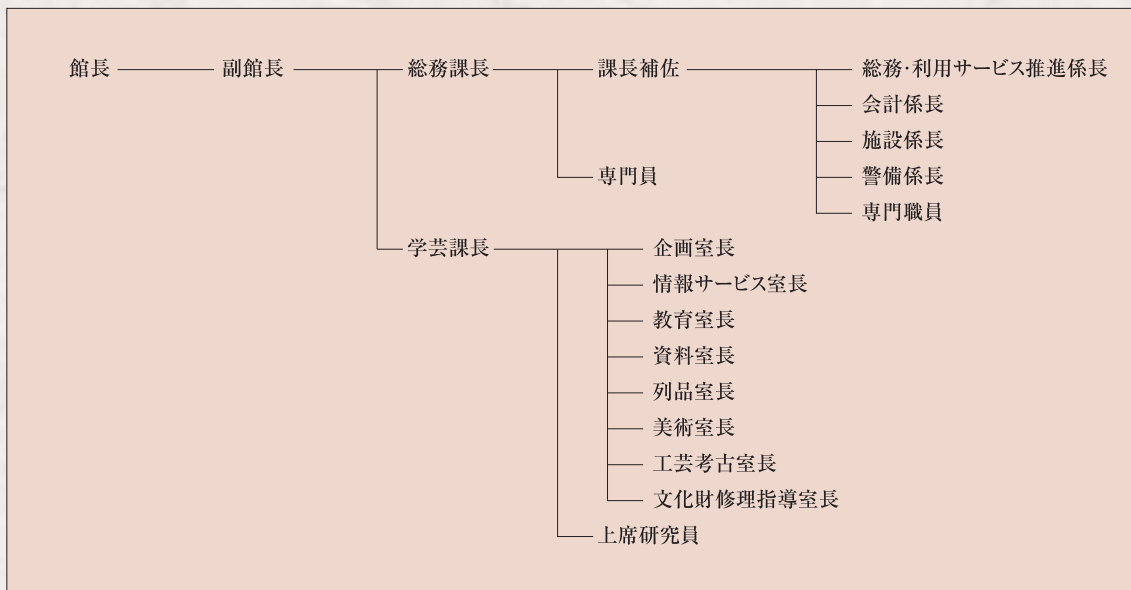
東京国立博物館組織図



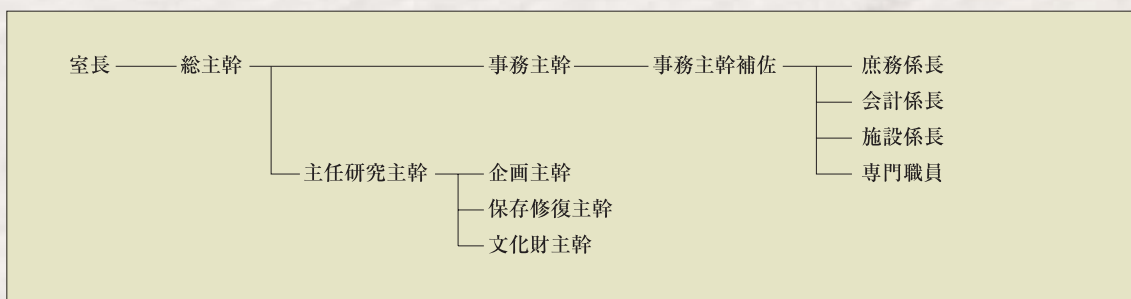
京都国立博物館組織図



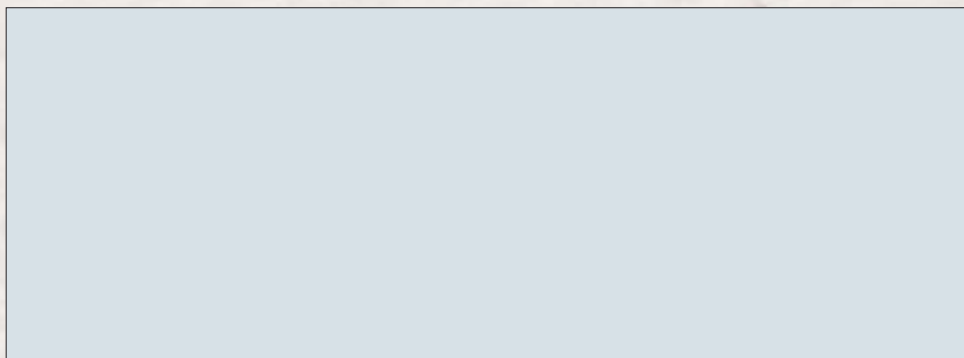
奈良国立博物館組織図



九州国立博物館（仮称）設立準備室組織図



②役員等



③運営委員会

独立行政法人化に伴い、より一層多くの皆様に親しまれる博物館を目指し、また、その役割を果たすため、各界からご意見を伺うべく、外部有識者による運営委員会を設置しています。

運営委員会は、国立博物館の管理運営に関する重要事項について、審議を行うとともに理事長に助言することを任務としています。委員は20名以内で、任期2年（再任可）とし、年2回を目途に会議を開催することとしています。

委員長	平山 郁夫（ひらやま いくお）	東京芸術大学長
副委員長	井内 慶次郎（いない けいじろう）	財団法人日本視聴覚教育協会会長
	上野 尚一（うえの しょういち）	朝日新聞社社主
	海老沢 勝二（えびさわ かつじ）	NHK会長
	大沼 淳（おおぬま すなお）	文化学園理事長
	木村 尚三郎（きむら しょうさぶろう）	財団法人トヨタ財団理事長
	清水 司（しみず つかさ）	東京都教育委員会委員長
	鈴木 嘉吉（すずき かきち）	財団法人仏教美術協会理事長
	辻 惟雄（つじ のぶお）	東京大学名誉教授
	辻村 哲夫（つじむら てつお）	独立行政法人国立美術館理事長
	長岡 實（ながおかみのる）	財団法人資本市場研究会理事長
	西川 杏太郎（にしかわ きょうたろう）	トキワ松学園理事長
	野村 吉三郎（のむら きちさぶろう）	全日空会長
	福原 義春（ふくはら よしはる）	資生堂名誉会長
	藤井 宏昭（ふじい ひろあき）	国際交流基金顧問
	本田 和子（ほんだ ますこ）	お茶の水女子大学長
	牧 美也子（まき みやこ）	漫画家
	マリ・クリスティーン	異文化コミュニケーター
	湯浅 利夫（ゆあさ としお）	宮内庁長官

④外部評価委員会

独立行政法人は、毎事業年度や中期目標の期間における業務の実績について評価を受けています。このため、文部科学省に評価委員会が設置されていますが、国立博物館においても業務の実績について、自己点検評価を行うとともに、このことを検証し、適正な評価を行うために外部有識者による外部評価委員会を設置しています。

外部評価委員会は、国立博物館の業務の実績についての評価を行い、理事長に助言することを任務としています。委員は5人以内で、任期2年（再任可）とし、適宜、評価にかかる会議・実地視察を行っています。

委員長	小林 忠 (こばやし ただし)	学習院大学教授
副委員長	蓑 豊 (みの ゆたか)	大阪市立美術館長
	木村 重信 (きむら しげのぶ)	兵庫県立美術館長
	藤好 優臣 (ふじよし まさおみ)	公認会計士
	横里 幸一 (よこさと こういち)	NHK事業局長

(敬称略)

⑤評議会 (各館別)

各館の運営に関する重要事項について審議を行うとともに、館長に助言することを任務として、各館ごとにそれぞれ設置しています。

東京国立博物館評議員

会 長	平山 郁夫 (ひらやま いくお)	東京芸術大学長
副会長	井内 慶次郎 (いない けいじろう)	財団法人日本視聴覚教育協会会長
	海老沢 勝二 (えびさわ かつじ)	NHK 会長
	大沼 淳 (おおぬま すなお)	文化学園理事長
	加藤 正克 (かとう まさかつ)	台東区立根岸小学校長
	神田 秀順 (かんだ しゅうじゅん)	寛永寺住職
	木村 尚三郎 (きむら しょうさぶろう)	財団法人トヨタ財団理事長
	清水 司 (しみず つかさ)	東京都教育委員会委員長
	辻 惟雄 (つじ のぶお)	東京大学名誉教授
	内藤 幹夫 (ないとう みきお)	台東区立忍岡中学校長
	長岡 實 (ながおか みのる)	財団法人資本市場研究会理事長
	西川 杏太郎 (にしかわ きょうたろう)	トキワ松学園理事長
	野村 吉三郎 (のむら きちさぶろう)	全日空会長
	福原 義春 (ふくはら よしはる)	資生堂名誉会長
	本田 和子 (ほんだ ますこ)	お茶の水女子大学長
	牧 美也子 (まき みやこ)	漫画家
	マリ・クリスティーヌ	異文化コミュニケーター
	丸山 祐樹 (まるやま ゆうき)	JR上野駅長
	吉住 弘 (よしずみ ひろし)	台東区長

(敬称略)

京都国立博物館評議員

副会長	朝尾 直弘 (あさお なおひろ)	京都大学名誉教授
	上田 正昭 (うへだ まさあき)	京都大学名誉教授
	上野 尚一 (うえの しょういち)	朝日新聞社社主
	内山 武夫 (うちやま たけお)	京都国立近代美術館長
	肥塚 隆 (こえづか たかし)	大阪大学総合学術博物館長
	澤田 ふじ子 (さわだ ふじこ)	作家
	中川 久定 (なかがわ ひさやす)	財団法人国際高等研究所副所長
	仲田 順和 (なかた じゅんな)	総本山醍醐寺執行長
	檜崎 彰一 (ひらさき しょういち)	名古屋大学名誉教授
	西八條 實 (にしはちじょう みのる)	株式会社島津製作所相談役
	久田 宗也 (ひさだ そうや)	表千家理事長
	三浦 小春 (みうら こはる)	元名古屋造形芸術大学教授
	村田 純一 (むらた じゅんいち)	村田機械株式会社代表取締役社長
	鷲塚 泰光 (わしづか ひろみつ)	奈良国立博物館長

(敬称略)



獅子螺鈿鞍
(東京国立博物館)



国宝 釈迦金棺出現図
(京都国立博物館)



十一面観音像
(奈良国立博物館)

奈良国立博物館評議員

会 長	木村 重信 (きむら しげのぶ)	兵庫県立美術館長
副会長	石毛 直道 (いしげ なおみち)	前国立民族学博物館長
	青山 茂 (あおやま しげる)	奈良学研究家
	大野 玄妙 (おおの げんみょう)	聖徳宗管長・法隆寺住職
	金関 恕 (かなせき ひろし)	天理大学名誉教授
	興膳 宏 (こうぜん ひろし)	京都国立博物館長
	阪本 道隆 (さかもと みちたか)	株式会社南都銀行取締役会長
	田代 和 (たしろ わ)	近畿日本鉄道株式会社取締役会長
	丹羽 雅子 (にわ まさこ)	奈良女子大学名誉教授
	橋本 聖圓 (はしもと しょうえん)	華嚴宗管長・東大寺別当
	葉室 頼昭 (はむろ よりあき)	春日大社宮司
	町田 章 (まちだ あきら)	奈良文化財研究所長
	三宅 久雄 (みやけ ひさお)	宮内庁正倉院事務所長
	山崎 しげ子 (やまざき しげこ)	随筆家
	矢和多 忠一 (やわた ただかず)	奈良県教育長

(敬称略)

⑥定員

区分	定員	一般職	技能・労務職	研究員
計	237人	96人	41人	100人
法人本部事務局	8人	8人	—	—
東京国立博物館	127人	46人	27人	54人
京都国立博物館	42人	20人	6人	16人
奈良国立博物館	34人	13人	8人	13人
九州国立博物館(仮称)設立準備室	26人	9人	—	17人



国宝 秋冬山水図
雪舟 筆
(東京国立博物館)



色絵桜樹文皿
(東京国立博物館)



国宝 薬師如来像
(奈良国立博物館)

3 平成16年度予算 (単位：千円)

収入予算額

上段()書は前年度決算額

	合計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	本部事務局
運営費交付金	(5,127,857) 5,955,549	(2,305,667) 2,129,213	(933,874) 902,902	(871,654) 943,895	(1,016,662) 1,979,539
展示事業収入	(917,243) 580,066	(472,562) 297,831	(233,889) 91,053	(208,830) 191,182	(1,962) 0
入場料収入	(606,129) 480,348	(284,455) 233,206	(168,993) 71,996	(152,681) 175,146	(0) 0
その他収入	(311,114) 99,718	(188,107) 64,625	(64,896) 19,057	(56,149) 16,036	(1,962) 0
寄付金収入	(40,500) 0	(23,800) 0	(9,300) 0	(7,400) 0	(0) 0
施設整備費補助金	(524,497) 2,319,153	(0) 0	(485,297) 0	(0) 0	(39,200) 2,319,153
合計	(6,610,097) 8,854,768	(2,802,029) 2,427,044	(1,662,360) 993,955	(1,087,884) 1,135,077	(1,057,824) 4,298,692

支出予算額

上段()書は前年度決算額

	合計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	本部事務局
人件費	(2,181,214) 2,276,554	(1,219,473) 998,884	(402,198) 368,264	(329,763) 404,045	(229,780) 505,361
事業経費	(2,990,186) 4,259,061	(1,229,397) 1,428,160	(655,425) 625,691	(703,866) 731,032	(401,498) 1,474,178
一般管理費	(492,302) 1,016,954	(254,971) 470,624	(114,494) 145,705	(57,669) 278,213	(65,168) 122,412
展覧事業費	(1,713,591) 1,359,160	(649,504) 636,550	(467,477) 368,430	(592,641) 354,180	(3,969) 0
調査研究事業費	(402,663) 447,389	(295,486) 268,705	(56,831) 90,189	(50,346) 58,507	(0) 29,988
教育普及事業費	(49,269) 116,246	(29,436) 52,281	(16,623) 21,367	(3,210) 40,132	(0) 2,466
九州準備事業費	(332,361) 1,319,312	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(332,361) 1,319,312
施設整備費	(524,497) 2,319,153	(0) 0	(485,297) 0	(0) 0	(39,200) 2,319,153
合計	(5,695,897) 8,854,768	(2,448,870) 2,427,044	(1,542,920) 993,955	(1,033,629) 1,135,077	(670,478) 4,298,692



花下遊楽図屏風
(東京国立博物館)



色絵花鳥文大深鉢
(東京国立博物館)



国宝 新撰類林抄
(京都国立博物館)



国宝 孔雀明王像
(東京国立博物館)

平成15年度に入り独立行政法人となって2回目の評価が行われました。平成14年度事業に対する文部科学省独立行政法人評価委員会の評価の主なものは以下のとおりです。

総 評

国立博物館は、平成14年度においては、中期目標期間の2年目として、目標の入館者数約134万人を大きく超える約239万人が観覧し、多くの人々が満足する展覧会を開催するとともに、収集・保管、展示、調査研究、教育普及などの「国民に対して提供するサービス」、及び「業務運営の効率化」について年度計画以上の実績を上げた。また、特に、各種イベントやコンサート等を開催するなど、新しい博物館の運営に積極的に取り組んだ。さらには、ナショナルセンターとして国際文化交流を推進するとともに、国内外の博物館活動の充実へ大きく貢献するなど、中期目標にある「国民に親しまれる博物館を目指して」着実な成果を上げていると評価する。

また、評価委員より、以下のような指摘も受けました。今後はこれらの課題にも重点的に取り組んでまいります。

収 集 ・ 保 管	・ 今後とも、文化財を収集しやすくするため、文化庁と連携協力し、税制問題を含めてその推進方策を検討するとともに、3館で情報交換を図りながら各館にふさわしい作品を収集する必要がある。 ・ 24時間空調が行われていない施設については、保管に適切な温湿度の範囲を超えないよう、また、急激な温湿度変化が生じないようにする必要がある。 ・ 文化財の取扱いについては、その知識と技術が重要であるとともに慎重さが求められることから、引き続き、職場での体験や研修を通じて、その継承に努める必要がある。
公衆への観覧	・ より多くの国民を博物館に引き付けるため、展示の充実以外にも館の魅力を高めることが重要である。そのためには、効果的な広報を行い、観光や地域の振興に果たす役割を持つような戦略などを不断に検討し、いままで来館したことのない人の興味も喚起し、何度でも足を運んでもらえるような改善を図る必要がある。 ・ 今後とも、整理券や期限付きの招待券の発行等を検討し、より良い観覧環境を確保するための努力を続ける必要がある。 ・ 見易く、分かり易い作品解説にするよう工夫するなど、展示の持つ教育普及的効果に、十分配慮することが望ましい。
調 査 研 究	・ 研究成果については、国立博物館が作成する図録や研究紀要等で公開されているが、研究紀要の発行等に際しては、編集方針を併記するなど学術的に高い水準を確保することが望ましい。また、学会で発表する等、広く公開していくことが望ましい。
教 育 普 及	・ 限られた人員と予算の中で充実した教育普及活動を行うためには、国立博物館として果たすべき役割を検討し、その上で全般にわたる見直しを検討することが望ましい。 ・ 博物館実習生の受入れについては、他の業務とのバランスを勘案の上、目的の明確化と内容を見直す必要がある。

教 育 普 及	・収蔵品及び図書などの諸資料のデジタル化やその公開については、より一層の取組が望まれる。
そ の 他 の 入 館 者 サ ー ビ ス	・政府の観光立国懇談会の報告書等を踏まえ、引き続き、外国人にも親しまれるための改善に力を入れる必要がある。 ・館へのアクセス情報等、インターネットを活用したサービスについても積極的な検討が望まれる。
運 営 (理事長等の トップマネジメント)	・文化財、人材、情報など国立博物館の持っている資源を最大限に活用し、3館が一体となった効率的かつ効果的な運営を行っていくことを期待する。 ・国立博物館は、地震・火事・洪水又は人災などのあらゆる災害が起きた場合、人の安全を最優先としながらも、文化財を安全に保管し後世へ継承する責任があるため、あらゆる危機にも的確な判断と行動がとれるよう危機管理のマニュアル作りが重要である。 ・展覧会の企画や独自の展示手法などに伴って発生しうる権利の問題についても検討することが望まれる。
財 務	・各事業の実績等を勘案した上で、予算を作成し、コスト意識を持ちながら柔軟で弾力的な執行を行い、その結果を自己点検する必要がある。 ・文化財の貸与・特別観覧や施設使用の料金の設定は、国有財産の使用料に準拠している部分もあるが、今後、使用者やその目的などを勘案し、提供するサービスに見合った使用料の設定をするなど、独立行政法人として弾力的な取り扱いについて検討をすることが望ましい。
人 事	・事務職員については、博物館業務固有の専門分野での人材育成に困難な面がある。このため、博物館運営など固有の業務についての知識を習得するための研修を実施する必要がある。また、国立博物館で独自に事務職員を採用し、人材を養成することも必要と考える。 ・また、研究職員については、文化財に関する専門的知識とともに、独立行政法人における役割を十分理解し、運営や広報などの博物館活動の重要性について認識を持つことが必要である。そのため、経験と知識の専門性を尊重しつつ、文化庁や国立大学等との人事交流、又は公私立の博物館や民間企業等からの採用についても引き続き積極的に行っていく必要がある。 ・国立博物館として一体的な運営を目指すため、本部機能の充実を図り、3館における職員の人事交流も積極的に検討する必要がある。
施 設	・現在建設中の九州国立博物館（仮称）や建設予定の京都国立博物館百年記念館（仮称）については、文化財を適切に保管するとともに、入館者が快適に過ごせるよう検討していく必要がある。

平成14年10月1日施行になりました「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」に基づき、各館において情報公開の窓口を設けています。

国立博物館（本部事務局、東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館（仮称）設立準備室）が保有する独立行政法人国立博物館の文書に関する情報公開の相談・受付は、次の3カ所に設置している情報公開室において行っています。

また、インターネットで調べる場合は、法人文書ファイル管理簿の検索システムを

「<http://www.natmus.jp/DocFileSearch.html>」で公開していますので、ご活用ください。

	東京国立博物館内情報公開室	京都国立博物館内情報公開室	奈良国立博物館内情報公開室
所在地	〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9	〒605-0931 京都府京都市東山区茶屋町527	〒630-8213 奈良県奈良市登大路町50
所在棟	資料館(2階)	管理棟(1階)	東新館(1階)
受付場所	西門(国際こども図書館側)	東大路通通用門受付	東新館事務所受付
受付日	次の日を除く毎日 土曜日、日曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日、年末年始(12月29日～1月3日)		
受付時間	9:30～12:00、13:00～16:30		
担当係	本部事務局総務課 研究推進担当	京都国立博物館 渉外課渉外係	奈良国立博物館総務課総務・ 利用サービス推進係
連絡先番号	TEL 代表 03-3822-1111	TEL 075-531-7504	TEL 0742-22-4456



土偶
(東京国立博物館)

駿牛図
(東京国立博物館)



国宝 檜図屏風
(東京国立博物館)

国立博物館からのお知らせ

東京国立博物館・奈良国立博物館では賛助会員制度(随時加入)による支援を、京都国立博物館では(社)清風会による支援をいただいております。また、お客様に、より博物館に親しんでいただくために、友の会・パスポート制度を設けております。

皆様のご利用をお待ちしております。

賛助会員制度等

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館
名 称	東京国立博物館賛助会員	社団法人 清風会	奈良国立博物館賛助会員
年 会 費	特別会員 100万円以上 維持会員 個人 5万円 団体 20万円	賛助会員 1口 10万円 特別会員 5万円 普通会員 2万円	特別賛助会員 50万円以上 賛助会員 個人 5万円 団体 20万円
特 典	平常展 会員証を提示することにより、同伴者1人まで何回でも無料で入館できます。		
	特別展 会員証を提示することにより、同伴者1人まで何回でも無料で入館できます。 ※お申し込みの博物館以外は特別展ごとに1回のみ同伴者1人まで無料で入館できます。 ※東京国立博物館の維持会員は特別展ごとに1回のみ同伴者1人まで無料で入館できます。		
お問い合わせ先	営業開発部渉外開発担当 03-3822-1111(代表)	社団法人 清風会 075-531-7519	総務課総務・利用サービス推進係 0742-22-7771(代表)

※税制の優遇措置があります。

友の会・パスポート

	東京国立博物館			京都国立博物館		奈良国立博物館		
名 称	友の会	パスポート		友の会		友の会(パスポート)		
年 会 費	1万円	一般 3千円	学生 2千円	一般 3千円	学生 2千円	一般 3千円	学生 2千円	家族 6千円
特 典	平常展 会員証を提示することにより、何回でも無料で入館できます。 ※奈良国立博物館の家族会員は、奈良国立博物館のみ1回に5人まで無料で入館できます。 東京・京都の各館については1人のみ無料で入館できます。							
	特別展 会員証またはパスポートを提示することにより、特別展ごとに1回、合計6回まで無料で入館できます。 ※東京国立博物館の友の会会員は観覧券を12枚お渡しします。(ただし、京都・奈良の各館で利用できる観覧券は6枚まで) ※奈良国立博物館の家族会員は、奈良国立博物館では特別展1回入館ごとに5人まで無料で入館できます。また、東京・京都の各館においても1人のみ無料で入館できます。(ただし、東京・京都・奈良の各館あわせて6回まで)							
お申し込み方法	各館の窓口のほか、郵便振替によってもお申し込みの受付を行っております。							
お問い合わせ先	営業開発部渉外開発担当 03-3822-1111(代表)			渉外課渉外係 075-541-1151(代表)		学芸課企画室 0742-22-7771(代表)		

独立行政法人
国立博物館本部事務局

〒110-8712 東京都台東区上野公園13番9号
電話 (03) 3822-1111 (大代表)
URL: <http://www.natmus.jp/>

